

## ■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状

災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄

### 1、人の状況

避難民を500人収容、多くは南相馬市や双葉郡などの被災者と原発事故避難者である。

村外の多くは、自宅で不安にかられて屋内退避の生活をしいられている。肉用牛飼育など畜産の村で、家畜をどうすればいいのか不安が広がっている。

村民の中には、親戚知人宅などへの自主避難した者が約3割はあるという風評だが、実態は現在行政区長と消防団で調査中である。

### 2、物資

- ・ガソリン、灯油等が村内ではほとんど手に入らない
- ・緊急車両のガソリンは隣町の川俣町まで取りにいくが、取りに行くまで時間がかかり、スムーズな確保ができない
- ・不足しているもの 移動のための燃料、

食糧・・・避難者、村民の食べもの・・・米、野菜、肉、牛乳、お茶など

薬品・・・高血圧など持病のある人の内服薬、風邪薬、下痢止め

医療・保健・・・お医者さん、看護師、要介護者の介護人

日用品・・・マスク、生理用品

要介護者の搬送車両、大型バス、

### 3、放射線数値と対応

数値は添付グラフ。ヨウ素剤12,000個を確保しているが、18日現在、39歳以下の住民へはまだ投与していない。

### 4. 今後の対応

#### <決定事項>

- ・住民の安全を確保するため、飯舘村として集団自主避難を決定した。
- ・集団避難先は、栃木県鹿沼市、県立南体育館（1,800人）
- ・計画輸送人員数は約2,000人
- ・輸送手段は、大型バスで、陸上自衛隊福島駐屯、飯舘村スクールバス、民間バスを、県の責任で実施を手配している。
- ・自主避難を希望している住民は、自己責任で避難していただく。

#### <課題>

- ・自主避難できない寝たきりや高齢者などの移動手段が無い人の移動手段の確保
- ・特別老人ホーム入所者の移動手段の確保
- ・集団避難を希望する人数把握のため、18日夕方から地区に出向き説明会を開き、意思確認していく。
- ・ヨウ素剤を住民に投与する時期はいつがいいのか？ 判断できる資料が欲しい。